

成績不振学生の学習意欲を向上させるための 考え方について

【生きる力(非認知能力)を引き出すコーチング】

コーチングとは、目標達成するために必要となる潜在的な能力や意欲を、対話や議論など人とのコミュニケーションによって引き出し、行動へと結びつける手法です。

ビジネスで広がったコーチング手法は、あらゆる教育の場面でも活用されるようになってきました。

宇都宮大学の科学人材育成プログラム、河合塾のチューター研修、東員町の親と教師のプロジェクトなど、幅広く教育現場への実践を行っている稲垣友仁が、最新の教育テーマである「非認知能力」と重ねてお伝えします。

「非認知能力」とは、目には見えない性格や気質的な特徴のことを指し、忍耐力、コミュニケーション力、自制心、やり抜く力など、社会を生き抜くためにはどれも必要な能力となります。その非認知能力が現在の生徒のパフォーマンスに大きな影響を及ぼしており、それらをコーチングアプローチによってどのように高めていくのか、現場での実践を踏まえて紹介していきます。

1. 日時 2019年1月29日(火) 14:00~16:00

2. 場所 名城大学 薬学部 新1号館1階 117教室

3. 講師 株式会社 コーチング・システムズ

国際コーチ連盟 (ICF) 認定プロフェッショナルコーチ 稲垣 友仁

<http://www.coaching-syst.co.jp/>

内容

- コーチングとは何か、コーチングの活用
- コーチングが学生指導に有効な理由
- 非認知能力が学生のパフォーマンスに影響している
- 非認知能力は数値化できる、伸ばすこともできる
- 非認知能力をコーチングで伸ばすには
生徒の受容感を高める聞き方、生徒のやる気を引き出す承認の方法
- 宇都宮大学科学人材育成プログラムでの事例

講師プロフィール：稲垣友仁 氏

金沢大学教育学部卒業後、三重県公立中学校教諭、小学校教諭を経て、三重県教育委員会へ出向。その後、14年間勤めた公務員を退職し、教職公務員からプロコーチへの転職第1号となる。日本にコーチングが導入されたコーチング元年(97年)からコーチングを導入し、問題児の個性を活かして才能を開花させる奇跡のコーチング手法で、これまでに500人以上の子ども・親に対してコーチングを行ってきた。教育現場を熟知した本格コーチとしては、国内随一の実績を誇る。現在では、各都道府県教育委員会・行政機関・各教育現場に対してコーチングの講演・導入アドバイザーとしても活動中。講演・プロデュース数は年に100本を越え、10,000人以上の教育者・学生達に対してコーチングを伝えている。

取引実績(抜粋)：学校法人河合塾、名古屋市教育委員会、三重大学、南山大学経営学部、名古屋市社会福祉協議会、愛知県幸甚福祉施設協議会、国立病院機構名古屋医療センター、小牧市民病院、四日市市立病院など多数。

主催：名城大学薬学部 薬学教育開発センター
共催：名城大学薬学部 FD委員会